

銀山平へ集合!

フィッシュ・ウオッチングと放流事業 開催

平成二十一年 十月十八日(日)

北ノ岐川 開高記念碑前に三十八名集合

晴天の朝9時、幼児小
学生を含む老若男女総
勢三十八名が開高健記
念碑前に集合した。気持
ちの良い顔々が集まっ
た。

紅葉の北ノ岐林道は
ホオの落葉に覆われ、地
道の感触が靴裏に心地
良い。

カエデ、山ブドウ、ウ
ルシは紅く、ブナは頭上
で黄色に透けて輝き、道
端のススキは白く光っ
ていた。

さらに沢マユミの実
は真紅に、沢フタギの実
は瑠璃色の光沢を放っ
ていた。



「ウォー!」「いたいた!」・・・「スゴイ!」



「イワナよ大きくなあ〜れ!!」



宮ノ淵の大イワナたち

奥只見の植物・動物・景
観のことなど、要点を得た
レクチャーを受けながら、
のんびり歩いてウオッチ
ングポイント(宮ノ淵)ま
での所要時間は概ね40
分であった。

宮ノ淵では数十匹のイ
ワナが流れの中で、ゆっく
り群遊していた。
陽光は水中によく透過
しクリアで偏光グラスを
通して川底が手に取る様
に見える。

ここかしこで「ウアー」
「オー」「キレイ」「オオキ
レイ」・・・

様々な感嘆の声を上げて
いた。

一息して、目を転じる
とスカイブルーの空に早
や銀嶺を輝かせて駒ヶ岳
が見える。

さらに兎岳から丹後山
へつづく山並みが遠望で
きた。

あの山並みの向こうは
太平洋へ向かって南流す
る大河、利根川の源流域
である。

一方、奥只見水系は峡
谷の水を集めて北流し、
阿賀野川となり日本海に
流れ出す。

日本を代表する河川の
分水嶺である。
宮ノ淵から上流の北ノ
岐川には一本の道もなく



来年もまた会いましょう

手つかずの深いブナ、ミ
ズナラを代表とする森林
帯であり、まさにイワナ
は「森の魚」である。

フィッシュ・ウオッチ
ングのあと北ノ岐川下流
に移動し、イワナの稚魚
800匹を皆の手で放流
した。今年、イワナは元
気者、参加者からの歓声
が上がる。

3年後、産卵のために
遡上してくるのは何%
であろうか、できるだけ
多く貴重な命を繋ぐ立
派な成魚になって欲し
いものである。

フィッシュ・ウオッチ
ングと稚魚放流を軸と
して、自然の中に身を置
く喜びとエコサイクル
の環を繋ぐささやかな
手助けを実感できた一
日となった。

奥只見の魚を救え!

「ブラックバス駆除大会IN奥只見」

平成二十一年 七月二十二日

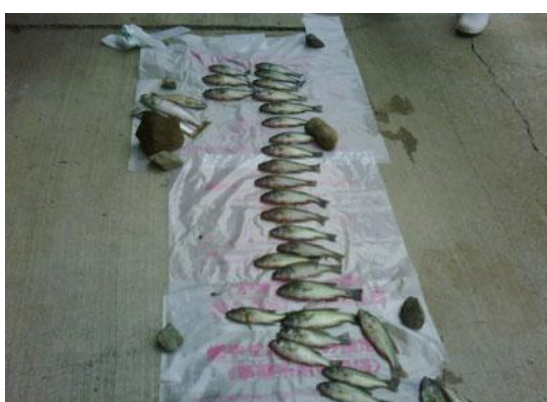
魚沼漁協・内水面漁業連合会 主催

奥只見の魚を育てる会後援

総勢四十五名参加 ブラックバス捕獲数二十九匹



各持ち場へと出船



捕獲されたブラックバス

梅雨晴れの中、総勢四
十五名、駆除船十七隻に
分乗し、中ノ岐沢、片貝
沢、仕入沢、南沢等の各
ポイントに向かい、刺網
と投網を使って駆除を
行いました。

今回の駆除で捕獲さ
れたブラックバスは2
9匹であった。
この数を見ると、そん
なにも多く生息していな
いように思えますが、なか
なか捕れないだけで銀
山湖に順応した個体が
増え続けています。

過去5年の捕獲実績
平成17年 150匹
平成18年 97匹
平成19年 92匹
平成20年 2匹
平成21年 29匹
捕獲総数370匹
昨今、ブラックバス
の話題は新聞紙上等に
おいて沈静化していま
すが、全国的には今も
広く分布を続けていま
す。
今やこれら外来魚に
よって日本の内水面の
生態系が大きな脅威に
さらされています。我が
会も地道に駆除活動を
行い、また違法放流につ
いても監視の目を光ら
せなければなりません。

担当 小林特志

溪流魚の聖域北ノ岐川支流に

人工孵化床作成とイワナの発眼卵放流実施

平成二十一年十二月一日

六十箇所に発眼卵二万八千粒



12月なのに雪が無いのはめずらしい



発眼卵

晩秋の奥只見、手に手にスコップ、フルイ、バケツ、ジョレン、極太の塩ビ管、クーラーボックス等を持ち北ノ岐川監視小屋前に総勢十五名の男達が集った。クーラーボックスの中にはイワナの発眼卵二万八千粒が入っている。

近年、悪化し続ける溪流魚の生息環境とルール無視のフィッシングプレッシャーのため奥只見のイワナは少なくなってきた。この対策は会の主要テーマの一つであった。

今回、自然繁殖により近い適応力に優れたイワナの増殖を目的として、支流に人工孵化床を作りそこに発眼卵放流を行った。

この試みは全員初めての体験であり、孵化場所の選定から手順、方法について新潟県内水面水産試験場、専門研究員の井熊孝男氏より指導を戴き実施した。

駒ヶ岳直下、最奥の支流には稚魚の餌と隠れ場が十分にあり、順調ならば厳冬の二月初旬、孵化予定である。

稚魚はしばらく石裏で冬をやり過ごし、春には孵化床から出てくるものと思われる。この活動は会の資金等を勘案し今後も継続して実施していきたいものである。

尚、発眼卵の提供並びに人的応援等、新潟県内水面水産試験場魚沼支場から支援を戴き有難うございました。

今後は事前にホームページ等で情報公開致しますので、皆様からの御参加もお願い申し上げます。



奥只見この人

星和夫監視員

北ノ岐川は魚沼漁業協同組合の英断により、昭和五十六年全国初の保護水面に指定され、溪流魚の種川として全面禁漁となり今年で早や三十二年となる。

この間、密漁者との様々な攻防があった。平成十一年より北ノ岐川の監視指導の任にあたっているのが星和夫さんである。

人懐こい風貌と気さくな人柄、話をしていて楽しくなる。



愛犬とともに河川に目を配り、移動しながらパトロールする姿は景色の中に融然として、まさしく聖域の守り人である。日々、奥只見の溪流魚保護に多大な貢献をいただいている。

石抱橋たもとの監視小屋に立ち寄って下さい。山のこと、木のこと、魚のこと色々聞いて下さい。聖域の守り人は又、奥只見の語部でもある。

地元会員の

精神的支柱

大平昭作さん 逝く

長年、奥只見の魚を育てる会の活動に物心両面に渡る支援を戴いてきた、大平昭作さんは、平成二十二年一月十四日、心不全のため御逝去されました。

告別式には生前親交のあった常見忠代表より参列を戴きました。

故人はサントリー佐治敬三氏の縁者であり、魚沼市で創業三百年の暖簾を誇る「緑川酒造株式会社」の経営に長年あたられてきました。

銘酒「雪洞貯蔵・緑」の蔵元です。

生前、自ら華美を戒め、泰然自若、品格のある人でした。引退後は奥様との散歩を日課としており、立ち話での短い会話の中に会に対する愛情をいつも感じる事ができました。

本当にかけがえのない人が逝ってしまいました。つつしんで故人の御冥福をお祈り申し上げます。



開高健 生誕 80 年記念

魚沼市 開高健展 開催

平成 22 年 5 月 29 日 (土) ~ 6 月 13 日 (日)

AM 10:00 ~ PM 5:00

入場料: 500 円

会場: 魚沼市地域振興センター 2F

TEL 025-792-7300

記念講演

「開高健が愛した奥只見湖と食と酒」
元サントリー株式会社 広報部長 吉澤一成氏
6 月 5 日 (土) PM 2:00 ~ 同会場にて

二十一年度の

活動報告

編集後記

奥只見の魚を育てる会 早創期、文豪開高健氏を中心に多士済々が集まり熱気があった。後年、奥只見・大鳥増設工事は知力、行動力のある人々の活動があった。時移り去りし今、奥只見が溪流魚の聖地となる日を悠々展望して、地道な活動を積み重ねて行く事が大切かと思っております。魚は歩くことをやめない。のろくても一歩一歩前に。

中澤

◎総会開催 三月六日

魚沼市青島集落センター

◎イベント

① ブラックバス駆除

大会 IN 奥只見

七月二十二日

参加者 四十五名

② フィッシュ・ウォツ

チンクとイワナ稚魚

放流

十月十八日

参加者 三十八名

③ イワナの発眼卵放

流

十二月一日

参加者 十五名

◎会報の発行

平成二十二年 四月

500 部